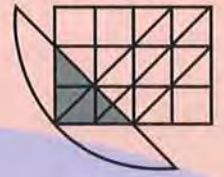


博物館だより



和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.19

2014.3

特集

地域・人々とつながる博物館をめざして

① レプリカを活用した文化財の保全

め、展示のユニバーサルデザインという観点から取り組んでいるものですが、実はこうして作製したレプリカを展示だけでなく、文化財の保全活動にも活用しはじめています。

◇ 和歌山県では平成22年から23年にかけて、山間部の小さな寺院・神社やお堂を中心に、仏像など文化財の盗難被害が集中的に発生しました。被害件数60件を超える前代未聞の規模でしたが、各地の集落で、高齢化や人口減少によってコミュニティが縮小して守り手が減り、防犯体制が手薄になっていた隙を突かれたことで、被害が拡大したと考えられます。こうした状況下で、文化財を守るための対応が喫緊の課題となつてい



レプリカ(左)と実物(右)

ます。 県立博物館ではこれまでにも、文化財の安全な管理が困難である地域

に、文化財の安全な管理が困難である地域



実物(左)とレプリカ(中・右)



紀の川市・林ヶ峰観音寺への奉納のようす

や所蔵者から資料の寄託を受けてきました。平成24年度からは、そうした寄託資料のレプリカを作製して現地のお堂に安置することで、文化財が伝わってきた環境の変化を少しでも減らす取り組みを行っています。現在のところ、県下の5か所の寺社等に安置しています。

この取り組みはあくまで、盗難被害急増という緊急事態における、文化財保全のための一つの方法です。こうした取り組みも含め、博物館がその機能を活用しながら地域とつながることで、さまざまな形で地域の歴史を守り伝えるためのサポートを、これからも継続していきたいと考えています。

和歌山県立博物館では、平成22年度から県立和歌山工業高等学校と連携して、さわれる文化財のレプリカを作製しています(文化庁補助事業)。これらのレプリカはエントランスホールや展示室内に設置しており、視覚に障害のある方をはじめ、来館されたあらゆる方が手に取り、楽しみながら歴史に親しんでいただいています。

これは公共の施設として、誰もがより多くの情報を得られる環境作りを行うた

② マイミュージアム ギャラリー

博物館では平成19年から、エントランスホールや文化情報コーナーにおいて、マイミュージアムギャラリーという小さな展示を継続的に開催しています（平成26年3月までに37回開催）。

これは思い出の品を、その思い出とともに紹介するという展示で、だれでも自由にご参加していただくことができます。これまでの展示から、一つご紹介しましょう。平成23年の第25回展示「急行大和号のサポ―和歌山と東京を結ぶ寝台列車―」です。出陳者の思い出を見てください。

「これは、寝台列車の急行大和号のサポ（列車行先標）です。片面に「東京行」、もう片面に「和歌山市行」とあります。大和号は和歌山と東京を結ぶ寝台列車で、



急行大和号のサポ

和歌山市駅を発着駅とし、王寺駅で湊町駅（現・難波駅）からの大和号と接続し、名古屋駅を経由しました。国鉄職員として和歌山駅（現・紀和駅）に勤めていた頃、その車両編成をここで行っていました。車内の座席は三段ベッドに変わり、給水などを施して、夕方六時ごろ出発していききました。和歌山と東京をつなぐ列車があったことを、覚えておいてほしいと思います。」

一枚のサポとそこから紡ぎ出される記憶は重なりあって、かけがえのない現代の歴史の一コマを示しています。博物館のあらゆる展示は、資料と人々の記憶の痕跡をつなぎ合わせながら、歴史を再構築して作られています。そのように考えてみると、私たちの思い出の品も、千年前に作られた国宝の文化財も、歴史を伝える大切な資料として等しく重要なものであるといえるでしょう。

昔遊んだおもちゃ、海岸で拾った石、あるいは初めて使った携帯電話。一見なにげないものでも、それにまつわる思い出とともに見ると見え方が変わり、かけがえのないものであることに気づきます。そして展示を見る人の心の中にも、さまざまな思いを巡らせることでしよう。

このようにマイミュージアムギャラリーは、思い出の品を出陳して博物館と深くつながっていただくことで、博物館がみなさまにとって特別な場所になることを目指した展示です。展示してみたいと思われましたら、どうぞ電話や受付で

お気軽にお問い合わせ下さい。学芸員が思い出をうかがって、一緒に展示を作ります。

なお、これまでのマイミュージアムギャラリーの展示は、博物館のウェブサイトで全てご覧いただくことができます。

③ 学習室をもっと 利用しやすく！

博物館では平成25年度に、2階学習室を講座やワークショップなどを開催できるフリースペースとして整備しました

（文化庁補助事業による）。

学習室では博物館主催の講座や体験学習を行うだけでなく、多くのみなさんに

ご利用いただき、博物館とつながっていただけるよう、貸し出しも行っています（無料）。

使用条件は、和歌山県の歴史や文化、教育の普及を目的とした事業を行っている団体（研究会、サークルなど）によって開催される、講座・講演会・ワーク

ショップ・研究会・シンポジウム・展示など、非営利の文化的行事に限ります。使用可能日時は、博物館の開館日のうち、博物館主催の行事による使用予定日を除く日の、午前9時30分から午後4時45分までです。

使用をご希望される方は「学習室使用許可申請書」に必要な事項を記入の上、博物館受付、あるいは総務課に提出（郵送可）して下さい。

詳しくは博物館のウェブサイトをご覧ください。ただ、受付にてお問い合わせ下さい。



学習室を利用した研究会のようす

きのくにの城と館

— 紀中の戦国史 —

中世という時代には、至る所に城館が築かれていました。和歌山県だけでも何百という数の城館があるといわれ、それらは地域の拠点でもありました。このような城館は、現在もその遺構を留めていたり、また発掘調査で明らかになったりするものも多く、今まさに実態解明が進んでいます。

特に室町時代・戦国時代の紀北から紀中にかけての地域では、畠山氏・湯

河(湯川)氏・玉置氏などの武士が、大野城(海南市)、広城(広川町)、小松原館・亀山城(御坊市)、手取城(日高川町)、鶴ヶ城(田辺市)、市谷山城・平須賀城(みなべ町)などを拠点に活動していました。この特別展では、これらの武士の活動とともに、城館とそれを取り巻く周辺社会の様子を古文書や考古資料をもとに紹介します。



手取城模型



湯河直春判物(福蔵寺蔵)



羽柴秀長書状(大阪城天守閣蔵)



湯河直光像(三宝寺蔵)



玉置直和像(生蓮寺蔵)

熊野

— 聖地への旅 —

「蟻の熊野参り」とも呼ばれるほどに、日本全国から参詣者がめざした憧れの聖地、熊野。人々は、信仰の道である熊野古道(紀伊路・中辺路・大辺路・小辺路・伊勢路)をたどってこの世の浄土に到り、雄大な自然の中にある熊野三山(本宮・新宮・那智山)に詣で、神仏へ祈りをささげました。

自然と一体化した聖地と、絶え間なく訪れる参詣者、そして聖地を維持し参詣者を受け入れた熊野の人々。それらが渾然と関わり合う中で形成された熊野の歴史とその文化は、雄大な景観も含めて、今もおお多くな人々を惹きつけてやみません。

世界遺産登録10周年の節目に際してこの特別展では、熊野三山に伝わる優れた文化財と、旅人が歩いた紀伊路・中辺路・大辺路沿いに残る文化財、熊野を訪れた画人や文人たちの作品、そして熊野三山の現地の展示とも連携しながら、改めて熊野信仰とは何かを問い直し、熊野の魅力の源泉を見つめ直す機会といたします。

右から、夫須美大神坐像、熊野速玉大神坐像、国常立命坐像、家津御子大神坐像。全て熊野速玉大社所蔵、国宝。



企画展	企画展	企画展	世界遺産登録10周年記念特別展	企画展	夏休み企画展	企画展	特別展	企画展	常設展
みほとけのすがた	描かれた紀州	墨一色―拓本の世界―	熊野―聖地への旅―	江戸時代の紀州の画家たち	文化財に親しもう！	紀伊徳川家の家臣たち	きのくにの城と館 ―紀中の戦国史―	新収蔵品展	きのくにの歩み ―人々の生活と文化―
3月14日～4月19日	1月24日～3月8日	12月16日～1月18日	10月18日～12月7日	9月6日～10月10日	7月19日～8月31日	6月7日～7月13日	4月26日～6月1日	3月8日～4月20日	4月1日～10月10日 12月16日～3月31日
	文人たちが旅先で描いた風景。和歌山城下を描いた城下町絵図。調度品としての屏風の画題となった風景。災害の様子を描いた図。さまざまな目的で紀州を題材とした絵が描かれました。この企画展では、近世・近代の紀州を描いた作品を中心に、紀州の歴史とその魅力を紹介します。	古来より、凹凸のある文字や模様などを和紙と墨で写し取る手法として拓本が用いられてきました。物を汚さずに形を記録できるため、文化財調査のなかでもしばしば使われています。この企画展では、収蔵品の拓本を中心に、金石文や印刷文化の魅力についてもあわせて紹介します。	「蟻の熊野参り」とも呼ばれるほどに、全国から多数の参詣者が訪れた聖地、熊野。世界遺産登録10周年の節目に、熊野地域の優れた文化財と、熊野を訪れた画人や文人たちの作品を通じて、熊野信仰の本質と、熊野の魅力の源泉を紹介します。	全国有数の都市であった和歌山城下をはじめ、江戸時代の紀州では、さまざまな画家が活躍していました。この企画展では、紀州の三大文人画家などの、トップクラスの著名な画家とともに、今では忘れられてしまったような画家まで、紀州の画家たちを幅広く紹介し、その魅力に迫ります。	和歌山県内には、全国的に見ても、非常に多くのすぐれた文化財が残されています。この企画展は、夏休みの子ども向けに、文化財の種類や見方をわかりやすく解説します。身近な神社や寺院などにも残されている、文化財の大切さをいっしょに考えてみませんか。	廃藩置県によって紀伊藩が消滅し、藩主であった徳川氏は和歌山を去り、城下に住んでいた藩士のなかには和歌山を離れる者もいました。博物館には遠方の藩士の子孫の方から情報が寄せられることがあり、こうして所在が明らかになった伝来資料などから、紀伊藩家臣の実像を紹介します。	和歌山県内には、たくさん城跡が残されています。この特別展では、室町・戦国時代に活躍した畠山氏・湯河氏・玉置氏などの武士の活動とともに、大野城、広城、亀山城と小松原館、手取城、鶴ヶ城、平須賀城など、その拠点となった城館について紹介します。	県立博物館は、和歌山県ゆかりの文化財について、収集・保管・研究・展示・教育普及という仕事をしています。近年、県立博物館が購入や寄贈によって収集した資料を、初めて公開します。	三万年にわたるきのくに―和歌山県の歴史を、人々の生活と文化を主軸として、わかりやすく展示します。特別展「熊野―聖地への旅―」の開催期間中は、常設展示を行っておりませんので、ご了承ください。

お知らせ

博物館では、主要な作品をイヤホン式ガイド機で解説する音声ガイドをご提供しています（一般二〇〇円、高校生以下一〇〇円）。常設展については、上級コース・英語版もあります。

博物館では、学校行事での利用はもちろん、職場体験やミュージアムボランティア・教員研修など、学校と連携した教育・普及活動にも取り組んでいます。詳しくは当館学芸課までお問い合わせ下さい。またホームページにも案内を掲載しています。

URL <http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

和歌山県立近代美術館(博物館となり)の展覧会

建島寛造と戦後の彫刻 かたちをさぐる
なつやすみの美術館4 生きていく！

和歌山から始まる旅 観光する美術

【月映】展 田中恭吉・藤森静雄・恩地孝四郎

和歌山と関西の美術家たち

リアルなリアルなリアルのリアルの

3月14日～5月10日

※このほかコレクション展や特集展示、特別事業なども開催されます。

博物館の利用案内

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 月曜日(祝休日の場合は翌平日)、年末年始。展示替えにともなう臨時休館する場合があります。詳しくは博物館までお問い合わせください。

駐車場	来館者	来館者以外
1時間まで	200円	300円
以後30分ごと	100円	100円

※大型バスをご利用の場合はお問い合わせ下さい。

入館料

特別展 きのくにの城と館	一般	大学生
個人	510円	300円
団体	410円	250円

特別展 熊野―聖地への旅―	一般	大学生
個人	820円	510円
団体	660円	410円

常設展・企画展	一般	大学生
個人	280円	170円
団体	220円	140円

※高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料です。
※企画展示室の展示替え期間中は常設展示のみとなります。

和歌山県立博物館友の会

平成26年度会員募集

友の会では、バスツアー、書籍の割引販売などの事業を行っています。
入会のお申し込み・お問い合わせは
友の会事務局 (TEL.073-436-8670)まで。



JR和歌山駅または南海和歌山市駅から「県庁前」(バス停)下車、徒歩2分

和歌山県立博物館 博物館だより 第19号

編集 和歌山県立博物館
〒640-8137 和歌山市吹上二丁目4番14号
TEL(073) 436-18670
<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

平成26年(2014)3月発行